

未来を予測し、社会課題の解決に資する SDGs 経営を目指す

～個人と社会、人と機械、人と自然の最適解を

オムロン株式会社の SINIC 理論に学ぶ～

<講演内容>

1. SINIC 理論発表の経緯
2. 今、なぜ SINIC 理論なのか
3. 成熟社会に求められるセカンドルネッサンスを SINIC 理論からどう見るか？
4. これからの企業に求められる「社会の公器」として進む道は？

<講師>



なかま しんいち

中間 真一 さん

株式会社ヒューマンルネッサンス研究所（オムロングループ）
エグゼクティブ・フェロー

1959 年生まれ。慶應義塾大学工学部管理工学科卒業後
富士写真フイルムを経て現職。埼玉大学大学院経済学研究科
修了。ヒューマンルネッサンス研究所では、「自律社会」を
テーマに、社会生活と科学技術の関係から未来を展望。

また、国内外に未来の予兆を探索し、学びの場の兆しづくりを
目指した「てら子屋」の活動も手がける。

著書に『SINIC 理論』（日本能率協会マネジメントセンター）
共著に『スウェーデン—自律社会を生きる人びと—』（早稲田
大学出版部）、『男たちのワーク・ライフ・バランス』（幻冬舎
ルネッサンス）など。

《会場》株式会社 丹青社（裏面をご参照ください）

<所在地> 東京都港区港南 1-2-70 品川シーズンテラス 19 階

<最寄駅> JR・京浜急行「品川駅」

《参加費》5,000円

（当協会会員：2,000円、学生：1,000円）

《お申込み》<https://www.philanthropy.or.jp/seminar/412>

または右下のQRコードからお申込みください。

2023.10.19 (木)

15:00 ~ 17:00

主催：公益社団法人日本フィランソロピー協会（JPA）

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル244

TEL：03-5205-7580 FAX：03-5205-7585 HP：<https://www.philanthropy.or.jp>



＜開催趣旨＞

「この先行き不透明な複雑な社会をひもとく理論なんてないんじゃないか？」ほとんどの方がそう思うでしょう。一方で、社会全体が自動化され、機械化されていくなか、人間の本質的な欲求や夢が置いてきぼりになっている。そういった危機感を抱いている人も多いのではないのでしょうか。

1970年、オムロン株式会社の創業者・立石一真氏は、国際未来学会で技術・社会・科学の相互作用をベースにした未来予測理論「SINIC（サイニック）理論」を発表しました。「社会のニーズを先取りした経営をするためには、未来の社会を予測する必要がある」との考えに基づくこの理論が、半世紀を経たいま、世代や専門分野を問わず「企業の公器性」の具現化を考える多くの企業人に注目されています。

社会課題を解決し、一人ひとりが生きる喜びを享受できる社会、他者と創り出す自立共生社会を実現するために、私たちはどのように行動すべきなのか。新たなソーシャルニーズを満たす科学技術をいかにデザインするのか。

未来への羅針盤ともいべき「SINIC 理論」を基軸に、よりよい社会のために企業として、個人としてなすべきことを共に考えたいと思います。社内の上司や部下、他部署の方々にも声がけいただき、奮ってご参加ください。

【会場ご案内】

株式会社 丹青社

＜所在地＞

東京都港区港南 1-2-70 品川シーズンテラス 19 階
品川シーズンテラス3階オフィスロビーより
エレベーター C で 19 階へお越しく下さい。

＜最寄駅＞

JR・京浜急行「品川駅」港南口（東口）徒歩約 10 分



引用元：株式会社丹青社ホームページ

<https://www.tanseisha.co.jp/resource/TanseishaAccess.pdf>